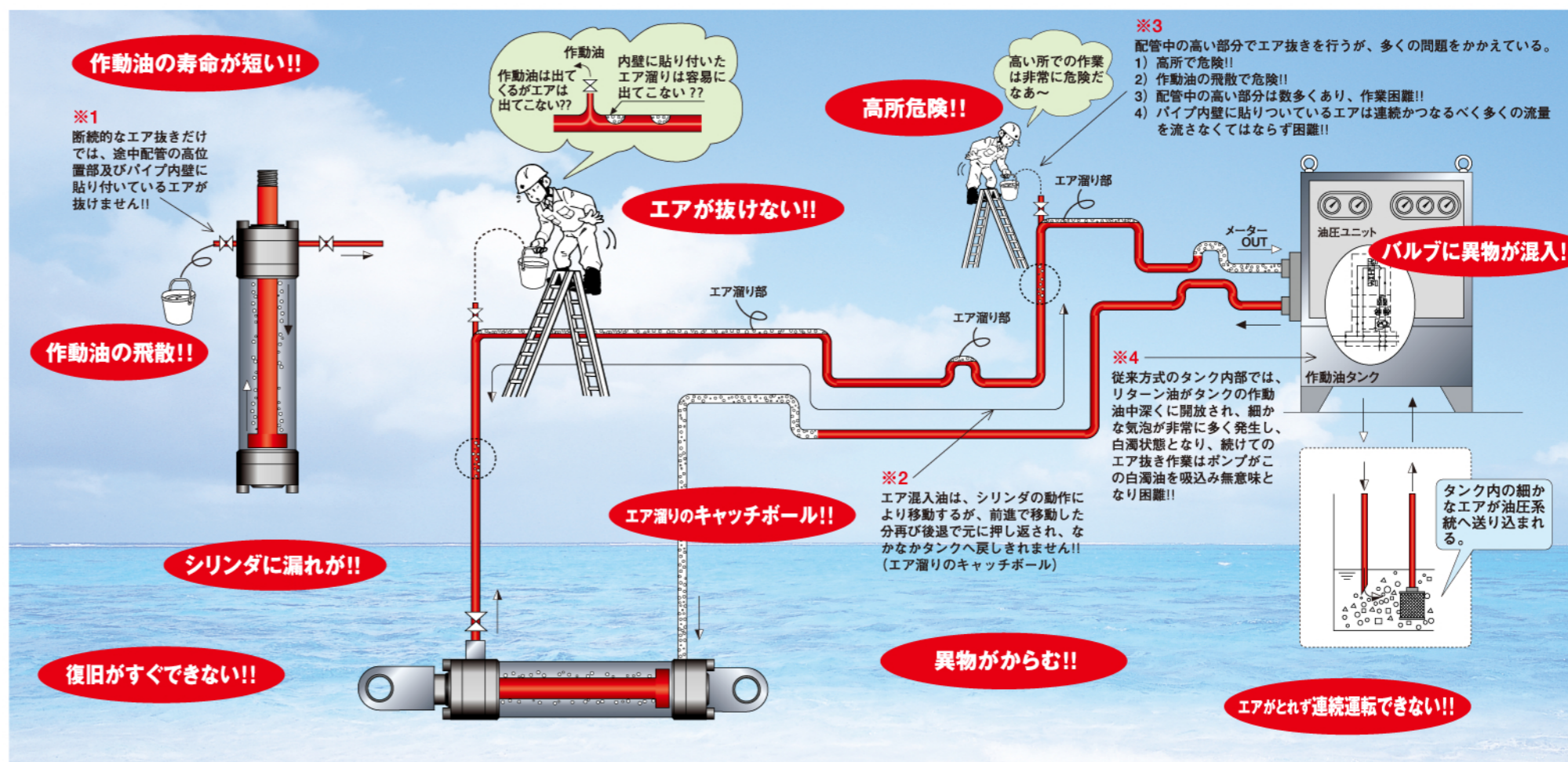


“エア”と“異物”の循環除去システム

従来の油圧システムには、 さまざまな問題がありました。

- ◆断続的なエア抜きだけでは、十分なエア抜きができません。※1
- ◆エア抜き時に作動油が飛び散り機械や床がベトベトになり危険です。※3
- ◆高所でのエア抜き作業が危険です。※3
- ◆エア溜りのキャッチボールでエアが抜けません。※2
- ◆残留エアが圧力上昇する時、局部的に高温になり、作動油・シールの劣化・金属内壁に浸食、壊蝕を発生する事もあります。
- ◆運転初期にタンク内の作動油に多量のエアが発生し、続けてのエア抜きができません。※4
- ◆作動油の劣化により、作動油の交換周期が短くなります。(約1年)
- ◆作動油交換時、シリンダまでの配管が長い場合、シリンダ部の作動油は入替える事ができません。
- ◆残留および蓄積されるエアと異物(生成スラッジ・機器摺動摩耗粉など)が油圧機器の作動不良を発生させます。(油圧の故障の原因はほとんどエアと異物!!)



MI611システムで、 さまざまな問題を解消しました。

- ◆MI611システムはエア・異物の循環除去ができ、各所におけるエア抜きは不要です。
- ◆エア抜き作業による作動油の飛散がありません。
- ◆高所でのエア抜き作業が不要で安全です。
- ◆エア溜りのキャッチボールもなく、効率良くエアが抜けます。
- ◆混入エアがなくなり、局所的な高温発生もなく作動油およびシール・金属類の劣化防止に貢献します。
- ◆運転初期エアを大気開放し、作動油中へのエア混入防止を図り、続けての運転が可能です。
- ◆作動油の寿命が長くなります。(約10年は作動油交換の必要はない)
- ◆MI611システムのバイパス弁を定期的に関閉することにより、機器をバイパスしたエア・異物の循環除去ができ、清浄度をNAS8級クラスに保てます。
- ◆MI611システムでは、長い配管の先のシリンダについても作動油の入れ替えが容易にできます。
- ◆MIV611弁には備え付けの多目的ポートがあり、シリンダ・配管の漏れチェックが容易にできます。(震度4以上の地震発生時は点検が義務※)

